



# 創立134周年 広い心

学校便り 20号  
令和2年 11月16日  
宮古島市立 狩俣小学校  
発行者：校長 松原 伸一

## 「Believe」自分を信じて！！ 夢をもってチャレンジしよう！！

11月10日（火）の3、4校時に、「夢の種まきプロジェクト MASA MAGIC（マサマジック）学校巡回事業」の講演会に狩俣中学校へ出かけました。

沖縄出身のマジシャンでテレビCMなどでもおなじみのMASA MAGIC（マサマジック）さんの講演会ということで、3～6年の子どもたちは胸を膨らませて出かけていきました。

マサマジックさんは、セロさん（世界的に有名なマジシャン）との出会いからマジシャンになることを夢見て、努力を重ね一人でアメリカに渡ってマジシャンの修行を行ったそうです。どんなに苦しいことがあっても自分を信じて、自分の夢を信じて、決してあきらめないで自分の好きなことを実践しているマサマジックさんからたくさん学ぶことができましたようです。子どもたちの感想を紹介します。



MASAマジックさんとニコリ笑顔ではいポーズ！！

「Believe」サインもいただきました。

僕はマサさんを沖縄で見たことがあったので、また見られたので嬉しかったです。マサさんはアメリカでマジックを使って友だちを増やしていたのが、めちゃくちゃすごいな—と思いました。【6年：新里 幸誠】

僕は今までいろんな事をしたいと思っていて、またしたいことができました。僕は前にマジシャンになりたいなと思ったけどやめておきました。でもマサさんに会えてうれしかったのでもう一回目指します。いつかすごいマジックを思いつくので、その時を待っててください。【5年：砂川 琉聖】

マジシャンは練習するだけじゃだめだと思いました。なぜなら、マサさんは家に帰ったらユーチューブを見て練習したり、英語を学ぶためにアメリカに行ったりいろいろがんばって自分を信じて「マジックキャッスル」で合格することができたからです。なので私も自分を信じてがんばりたいです。【6年：川満 碧】

元気のない人をマジックで笑顔にしたり、元気にできたと言っていたのでマジックでそんなことができるのはすごいな—と思いました。私も夢ができれば「ビリーブ（信じる）」と思いながら少しずつ夢を叶えていきたいです。【6年：亘保 愛華】

アメリカの大学に行っても、日本人とできるだけ会わないように生活していてすごいと思いました。ギャングにマジックを見せたら子どものようにはしゃぎ回ったり、落ち込んでいた家族の元気を取り戻せたりして、改めてマジックはすごいと思いました。【6年：池間 秋鷹】

アメリカで英語とマジックの勉強をしてすごいと思いました。理由は、マジックできるようになりたいという夢を持ってできるようになっていたし、英語も話せなかったけどペラペラ話せるようになっていたからとてもすごいと思いました。またマジックを見てみたいです。【5年：新垣 楓華】

一番心に残ったのはギャングに囲まれてもマジックを見せようとしたところです。僕は当てられて「ストップ」と言ったときエースになるとは思いませんでした。【5年：吉永 虎太郎】

信じれば夢は叶うと知って、私も信じてみようと思いました。どうしてかというマサさんもずっと信じたから夢が叶って今はプロのマジシャンになっているから私も信じたいです。私は失敗したらすぐにあきらめてしまうのでこれからは自分を信じて何回も挑戦したいと思いました。【5年：福島 美祐】

自分になりたい職業はず想像していれば必ずなれると聞いて、今日からやりたい職業を想像して、絶対になってみせます。マサさんが言っていた「ビリーブ（信じる）」を頭の中に入れて、大人になったらちゃんと考えて行動したいです。【6年：砂川 喜琉】

「ビリーブ（信じる）」という言葉は、人が夢を持ったとき、信じていくことを忘れず努力して進んでいけば、いつの間にか叶っているものだと思いました。アメリカ留学で英語、マジックを学びそのマジックを使っているいろいろなことに挑戦してすごく努力して今に至ったんだと思います。【6年：長崎 花】

MASA MAGICさん、驚きと感動のマジック & 素敵なお話をありがとうございました。

